

戦略評価シート

河辺雄和 商工会

平成30年度(2年目)

※戦略評価判定基準:戦略を構成する施策の評価結果に基づき、A(順調)、B(概ね順調)、C(一部未達成)の3段階で評価する。

戦略1 育て・挑戦を支える商工会		総合評価	C
施策1	個社支援強化のための支援体制づくり【重点推進施策】		A
施策2	地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大【重点推進施策】		C
施策3	実効性の高い会員加入促進の運動の実施		B
評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	平成30年度で全会員の課題抽出調査は終了している。事業者になり得る農業者会員の増強に取り組んでいる。芸術家については、空き家物件が少なかったことから会員増加に至っていない。	調査結果を支援に活かせるよう検討する。芸術家に紹介できる空き家物件を増やす必要がある。	調査結果を分析し、支援に活用する。農業者会員を20名程度まで増やせるよう取り組む。空き家情報を収集できるよう各団体と連携を強化する。

戦略2 プロ集団の商工会		総合評価	B
施策4	優れた個社支援を実施するための職員の資質向上		B
評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	年度目標とした「有給休暇の取得率向上」については、目標達成している。複数担当制、多能工化を目的としてOJTを積極的に推進している。	資質向上に直結する取組の検討が必要。	優れた個社支援に繋がる取り組みを行う。専門家を交えたOJTも検討する。

戦略3 事業者が主役の商工会		総合評価	B
施策5	商工会事業に会員の声を反映		B
施策6	青年部・女性部事業の見直し		B
評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	独自様式の評価から全県統一の様式による評価の検証を進めている。取り組み発表は計画通り実施されている。事業を見直すための課題解決に取り組んでいる。	評価が「C」の項目の取り扱いの検討が必要。事業を見直すための阻害要因となる問題をいかに解決するかが課題。	全ての項目を「A」にするようにPDCAを回し、新たな対策を講じていく。経営革新に取り組む部員を増やしていけるよう計画的に取り組む。部員が主体となって活動できる組織の在り方を目指して再検討を進める。

戦略4 機動的・効率的な商工会		総合評価	A
施策7	広域連携による効率性の高い事業の構築【重点推進施策】		A
評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	近隣の商工会と連携し、事業を行いコスト削減等を進めている。	特に課題はない。	地区内の職員毎の会議等の中で連携できる事業を検討する。

戦略5 環境変化に強い商工会		総合評価	B
施策8	商工会館の早期移転【重点推進施策】		B
評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	会館の補修により喫緊の移転は免れており、引当金も計画通り進んでいる。	10年以内に移転先を決める必要がある。将来的には毎年の引当金の額が計画通りいかなることが考えられる。	秋田市へ遊休施設が活用できるよう要望する。引当金の額について再考する必要がある。